

日本 语言 与 交际 入门

编著◎王秀文 中村万里 黄英兰



大连理工大学出版社
Dalian University of Technology Press

日本 语言 与 交际 入门

编著◎王秀文 中村万里 黄英三



大连理工大学出版社
Dalian University of Technology Press

图书在版编目(CIP)数据

日本语言与交际入门 / 王秀文, 黄英兰, (日) 中村
万里编著. — 大连: 大连理工大学出版社, 2010. 7

ISBN 978-7-5611-5331-4

I. ①日… II. ①王… ②黄… ③中… III. ①日语—
语言学 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 095425 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708842 邮购: 0411-84703636 传真: 0411-84701466

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 140mm×203mm 印张: 6.875 字数: 170 千字

印数: 1~2000

2010 年 7 月第 1 版

2010 年 7 月第 1 次印刷

责任编辑: 宋锦绣

责任校对: 张宇

封面设计: 季强

ISBN 978-7-5611-5331-4

定 价: 20.00 元

前 言

人们经常说“语言是工具”，那么它是做什么用的工具呢？当然是为了沟通、为了交流，以达到人们社会生活各自所需的目的。然而，语言是社会的产物，是文化的载体，语言交际不可避免地伴随着民族的、社会的、文化的因素和特征。当我们使用一种与母语不同的语言（通常称之为外语）与具有不同文化背景的人进行沟通交流时，除具备必要的语言知识和能力之外，还有必要了解语言特有的表述方式，而表述方式又是根源于文化的独特现象。有人说：在跨文化语言交际中，出现文化上的错误比出现语法上的错误更令人难以原谅。

21世纪前后，基于国际化社会的迅速发展，具有不同文化背景的人与人之间交往日益频繁，人们开始切身地感受到外语的重要，同时也开始意识到了了解外国人和外国文化的必要性。由此，国内很多外语院系已经不仅局限于外国语言知识的传授和语言能力的培养，而是开设了一些与对象国相关的社会、文化知识课程，以完善学生专业素质的结构。这无疑是必要的。

然而，文化知识的拓展并没有直接促进语言交际能力的提高，于是在国际社会又产生了一门“跨文化交际学”，主要研究不同文化之间的交际方法问题。这个领域的研究在欧美社会起步较早，日本次之，中国再次之。在国内，英语界起步较早，日语界次之，可以说刚刚引起人们的注意。而且国际社会的研究定位基本上都是以英语为对象，例如日本人研究日语与

英语之间的交际方法，中国人研究汉语与英语之间的交际规律和特点，这说明中日之间跨文化语言交际的研究是滞后的。

然而我们知道，日本民族和日本文化在国际上均具有鲜明的特色，长期以来一直引人关注。因此日语这种语言以及日语的表述方式独具特色，值得我们仔细观察和研究，并速将其成果转化成为日语人才培养的资源，变成学生的专业能力。

在其研究尚未深入，又基于人才培养的急需，编者力图按照跨文化交际学的性质和要求，从中国人学日语的实际出发，选择日语交际所必要了解的常识性文章，经过适当的章节编排，权作教学应急之用。文章来源较杂，体裁题材不尽一致，虽然经过近5年的课堂教学试用和反复多次增删，但尚存在诸多不尽人意之处，期待在教学和学习过程中能够去粗取精，为我所用。

对于选用的文章，在章节后均一一注明了出处，但是多处并非原封不变，而是结合实际做了些许调整和增删，以尽量做到全书内容和体例的统一。在此，对书中被选用文章的作者及出版社表示衷心的感谢，同时期望广大使用者提出中肯的意见和建议。

编著者代表：王秀文

2010年元旦于大连

目次

前 言

第一章 異文化コミュニケーションの基礎概念

第一節 文化とコミュニケーション…………… 2

1. 文化の概念
2. コミュニケーションの概念
3. 文化とコミュニケーションの関係

第二節 異文化コミュニケーション…………… 7

1. 異文化コミュニケーションの概念
2. 異文化コミュニケーションの過程と困難点
3. 異文化コミュニケーションに必要な考え方

第三節 相手の靴をはいてみる——感情移入・共感………… 12

1. 感情的体験を共有する——感情移入・共感
2. 異文化学習における感情移入・共感
3. 感情移入と異文化コミュニケーション訓練

第二章 日本人と日本語

第一節 日本文化と日本語…………… 18

1. 集団の心の索引
2. 日本人を知る指標語の例

第二節 日本人の世界観と日本語	28
1. アイランド・フォーム	
2. ワレとナンジの対立関係がない	
第三節 日本人の心と日本語	36
1. 語らぬ文化	
2. 返事・あいまいさ	
3. 相づち	
4. 丁寧さ	
5. 省略表現	

第三章 日本語と人間関係

第一節 日本の社会的人間関係	62
1. ヨコの間関係（うち・よそ）	
2. タテの間関係（上・下）	
第二節 敬語と社会意識	71
1. 待遇表現	
2. 敬語における日本人の社会意識	
3. これからのコミュニケーションに向けて	
4. 敬語の具体的な使い方	
第三節 人稱と呼称	96
1. 人稱代名詞	
2. 呼称	
3. 親族名称	
4. 仮の家族関係	

第四章 日本語コミュニケーションの規則

第一節 現代の話体さまざま…………… 106

1. 日常会話
2. 演壇スピーチ
3. ショートスピーチ
4. 説明
5. 司会
6. 対談
7. 座談会

第二節 紹介と自己紹介…………… 140

1. 紹介の仕方
2. 自己紹介の仕方
3. 職場での紹介

第三節 あいさつ…………… 148

1. あいさつの種々相
2. あいさつのマナーとその特色
3. あいさつの種類
4. あいさつの現場で

第五章 場面によるコミュニケーション

第一節 電話でのコミュニケーション…………… 166

1. 電話のかけ方
2. 電話の受け方
3. 電話の取り次ぎ方

第二節 手紙によるコミュニケーション…………… 176

1. 基本的パターン
2. 封筒の書き方
3. 書き手の心

第六章 日本語と非言語コミュニケーション

第一節 非言語コミュニケーションとは…………… 188

1. 非言語とは
2. 非言語メッセージの重要性と機能
3. 非言語メッセージの文化的個性

第二節 身振り言語とコミュニケーション…………… 193

1. 身振りの機能による分類
2. 日本人の身振り・しぐさ

第三節 表情・視線とコミュニケーション…………… 196

1. 表情
2. 視線

第四節 沈黙とコミュニケーション…………… 200

1. 沈黙と集中力
2. 沈黙の意味
3. 親密度と沈黙
4. 非言語コミュニケーションとしての以心伝心
5. 異文化コミュニケーションの1例

第五節 対人距離とコミュニケーション.....	204
1. 近接学と対人距離の区分	
2. 空間および対人距離と文化	
3. 日本人の対人距離	
参考文献.....	207

第一章

異文化コミュニケーションの基礎概念



第一節 文化とコミュニケーション

異文化コミュニケーションの理論を理解し、実践的活動を展開するためには、文化とコミュニケーションについての一般的な知識が不可欠である。そこで、最初に文化の概念、次にコミュニケーションの概念、そして最後に両者の関係について述べる。

1. 文化の概念

日本社会では、「文化」や「カルチャー」という用語はよく用いられている。これに類する用語をつけた組織・団体や行事が無数に見られる。この現象の背景には、日本人がこの種の用語を「高級」「現代的」「伝統的」というイメージと結びつけて受け入れるという心理傾向が認められる。しかし、その意味内容を改めて問う人は少ない。

異文化コミュニケーションで重要な文化の基本概念は、芸術、科学技術のような高等文化や歌舞伎や能に代表される伝統文化ではなく、一般市民の日常生活様式としての文化である。一定社会の成員が共通にもつ価値観・思考様式や感情傾向等のような内面的な精神活動、言語活動の特徴や身体表現様式、そして衣食住のような物質的生活条件等は、日常生活様式としての文化の代表的なものである。異文化コミュニケーションの理論的理解と実践においては、このような文化の基本概念を明らかにしておくことが重要な前提条件となる。

日常生活様式としての文化が成立するためには、次の三条件が必要である。第一の条件として、文化は人間が生得的にもつものではなく、社会の成員になるために生後学習・習得するものである。このような文化の学習・習得過程は、一般に文化化と呼ばれる。第二の条件として、文化は社会の一部の人たちが例外的にもっているものではなく、多数の成員が共有するものである。そして第三の条件として、文化は同世代に限らず次世代の人たちにも伝達されるものである。人間が他の動物とは異なる存在である証としての文化の概念を把握するためには、このような生活様式としての文化の成立条件を理解しておくことが大切である。

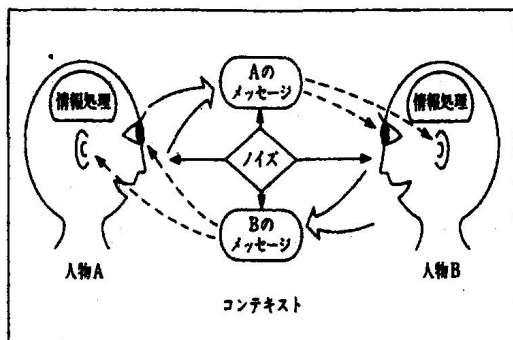
異文化コミュニケーションの研究と教育においては、文化の問題を文化一般と文化特定の二視点から扱うことが多い。文化一般の研究と教育は、全ての文化について人類が共通にもつ文化の普遍性に焦点を置く。文化特定の場合には、日本文化や韓国文化のような一定の文化を選び、文化的特徴を明らかにすることに重点を置く。異文化コミュニケーションの分野では、後者の立場から自文化と一定の異文化を比較・対照的に分析することが多い。

2. コミュニケーションの概念

コミュニケーションの概念は複雑で、定義も多種多様である。ここでは、「コミュニケーションとは、一定のコンテキストにおいて、メッセージの授受により、人間が相互に影響し合う過程である」と定義しておく。複雑なコミュ

ニケーションの
過程と構成要素
は、図の対人コ
ミュニケーション・モデルのよ
うなコミュニ
ケーション・モ
デルによって説
明されることが

図 対人コミュニケーションのモデル



多い。このモデルによって、人物Aと人物Bのコミュニケーションの過程と構成要素は次のように説明できる。

まず人物Aは、メッセージの送り手の情報処理活動として、目的とコンテキストに応じて考えや感情等を取捨選択と分類・整理をし、音声言語や表情・視線・ジェスチャー等の身体言語に記号化する。記号化された人物Aの考えや感情等は、メッセージとなって、相手の人物Bの主に視覚と聴覚に達し、選択的に知覚され、神経系を通じて脳に伝えられる。人物Bの脳は、メッセージの受け手の情報処理活動として、コンテキストと過去の経験を参照しながらAのメッセージについて意味づけ・評価・分類等の記号解読をして、重要なものを記憶する。人物Bは、人物Aの場合と同様の送り手としての情報処理活動をすることによって、自分の考えや感情等を記号化し、メッセージとして、相手の人物Aに送る。メッセージを受けた人物Aは、人物Bの場合と同様の受け手の情報処理活動を行う。このように、正常な対人コミュニ

ケーションは、両者が送り手と受け手の両役割を果たすことにより、円循環式に展開されると考えられる。

コミュニケーション活動には、程度の差はあるが、ノイズが必ず存在する。この場合のノイズは、単なる物理的な騒音だけでなく、コミュニケーション活動の障害となるものの全てを意味し、外的な障害物に限らず、人間の内部の生理的及び心理的問題も含んでいる。さらにコミュニケーションは、必ず一定のコンテキストにおいて展開される。この場合のコンテキストは、場面・状況に相当するもので、場所のような物理的なものに加えて、コミュニケーションに関する社会規範や文化的特性も指している。

以上の活動全体がコミュニケーションの過程であり、人物A、人物B、メッセージ、ノイズ、コンテキストはコミュニケーションの構成要素と呼ばれるものである。

コミュニケーション活動は、主に参加者の数によって、数種類にレベル分けされる。第一のレベルは、脳の中の情報処理活動であり、一般に個人内コミュニケーションと呼ばれる。第二は、対人コミュニケーションで、一人対一人で展開される。第三は、3人から15人程度の人たちによる集団コミュニケーションである。第四のレベルは、学校や会社のような組織で展開される組織コミュニケーションである。第五は、演説のように一人の送り手が多数の受け手を相手にする公的コミュニケーションである。そして最後の第六のレベルは、一定の送り手が不特定多数の大衆を相手にするマス・コ

コミュニケーションである。

以上が、コミュニケーションの一般概念で、異文化コミュニケーションの研究と教育においては、文化の概念と並んで理解しておくことが重要である。

3.文化とコミュニケーションの関係

文化はコミュニケーションであり、コミュニケーションは文化であるといわれるように、両者は密接な相関関係にある。文化はコミュニケーションにおけるメッセージの内容と授受の形式・方法を規定し、コミュニケーションは文化の存在と機能を可能にするからである。社会の成員としての人間は、コミュニケーションによって文化を学習・習得し、文化を通じて適切なコミュニケーションの活動方法を学ぶのである。言語に限らず、広く文化を異にする人たちのコミュニケーションを困難にする主な要因は、このような文化とコミュニケーションの相関関係にあるといえる。このように、両者の相関関係を理解することは、異文化コミュニケーションの諸問題を扱う際の基本事項となる。

以上、文化、コミュニケーション、そして文化とコミュニケーションの関係について概略を述べた。これらに関する基本的知識は、異文化コミュニケーションの理論的理解と実践的応用において、いわば不可欠の前提条件である。

〔参照：石井敏ほか『異文化コミュニケーション・ハンドブック』、2-6頁〕

第二節 異文化コミュニケーション

世界規模の国際化は、各国の相互依存化を急速に進め、さまざまな異文化摩擦を起こしている。このような国際的現状から、異文化コミュニケーションの研究・教育・実践に関する基本的な理解と考えを持つことは、今後ますます重要になると考えられる。そこで本章では、異文化コミュニケーションの一般的な定義と概念、異文化コミュニケーションの過程とそれに付随する困難点、そして異文化コミュニケーション活動を展開する際に必要な基本的な考え方を述べることにする。

1. 異文化コミュニケーションの概念

異文化 (intercultural) コミュニケーションは、基本的には人類共通の普遍的なコミュニケーションの過程と構成要素で成立するものであり、特別なコミュニケーションを意味するのではない。注意すべき点は、日常生活で多くの人たちが家族や友人と経験するコミュニケーション活動は同文化の者同士によるものであるのに対して、異文化コミュニケーションは異なる文化的背景の人たちによるコミュニケーション活動であるために特別な注意と努力を要するということである。そこで異文化コミュニケーションは、「文化的背景を異にする人たちが、メッセージの授受により、相互に影響し合う過程である」と定義できる。